

28 年度役員会活動報告書

第 66 回全国高等学校 PTA 連合会大会 千葉大会について

平成 28 年 11 月 5 日

PTA 会長 桑原 淳一

日時 平成 28 年 8 月 25 日(木) 午前 9 時～16 時

場所 幕張メッセ サブ会場他

出席者 桑原、金子、大久保、小林、伊東、小川、佐々木、林

1. アトラクション 習志野市立習志野高等学校 吹奏楽部 9 時～9 時 30 分

サブ会場内にもブラスバンドが繰り出し、高校生らしいハツラツとした演奏が観衆を魅了する演奏をしていただきました。

特に、ウルトラマンシリーズ主題歌メドレー、千葉の高校野球強豪校である習志野高校の応援歌の演奏と歌声が心に強く残りました。



2. 開会式



開会式では来賓として松野博一文部科学大臣や森田健作千葉県知事が来られ、祝辞が述べられました。

松野文部科学大臣からは、『オリンピックが閉幕して子供たちも努力することを学んだと思います。今後は、グローバル化に対応した育成、学習指導要領の取り組みを進め、家庭事情に関係ない給付型支援の導入を図って行きたい』旨のお話をされました。森田健作千葉県知事からは、『子供たちの生活環境は、厳しくなっております。いじめや不登校、引きこもりが増えております。自分たちも同じ時代があったが、良い方法がありました。勉強したが上手くいかず、剣道ばかりやっていた。そんな時に母が、人は皆必要があって生まれて来たんだ。お前にしか持っていないものがある。明るく、元気で、スポーツをやっているじゃないか！と言われ、よ～しと思った。それから、またやる気が出て扉が開いた。あの時に母に言われてなかったら、今の自分はなかった』と、いつもの熱い口調で話されておりました。

3. 基調講演 10時50分～11時50分



地元、千葉敬愛短期大学学長の明石 要一 氏より

「高校生の自立を支援するPTA活動の在り方」を演題として講演されました。

『戦後71年、時代が変わったと言われてますが、何が変わったのでしょうか？』

余談①

最初の掴みで全員にジャンケンのゲーを出してくださいとの話があり、ゲーの親指が外、内、真ん中の3パターンで女性の性格が分かる。

外は、外交的で負けず嫌い、前向きな性格で頑張り屋さん。結婚は恋愛結婚が多い。

内は、内向的で良妻賢母型、友達が少ない。結婚は見合い結婚が多い、デスクワークが得意

真ん中は、頭が良い、情報を集めるのが得意

PTA役員を決めるには、ジャンケンのゲーを出す人を選ぶと早く決まる。

但し、役員メンバーに外、内、真ん中がバランス良く配置されると上手くいく。

非常にユーモアたっぷりに話されていて、楽しく聞く事が出来ました。

余談②

- ・お辞儀するときに利き手である右手(武器)を左手で隠すのが礼儀
- ・入学式で壇上に上がるときに、階段を右足から上がる先生は生徒のことを考えている。左足から上がるとお尻を生徒に向けることになる。
- ・黒板を消す時に、縦に消す先生は生徒のことを考えている。横に消すと中央にチョークカスが残り、その後を書く文字が後ろの席の生徒から見え難い。

本論

① 親族が減ってきた。

子供の発達には、横線の家庭教育、縦線の学校教育、斜め線の親族による教育が必要であるが、現在は少子化により、親戚が劇的に減ったため、叔父さん、叔母さん、従兄妹が少なくなり、ここで学んでいたことが学べなくなっている。

このため、一人ぼっちの小学生、中学生が増えた。

P T Aには、現在掛けているこの斜め線の役割を担って欲しい。

② 子供が変わってきた。

現在の幼稚園では、配膳遊び的なごっこ遊びとなりつつあり、もの作りの(料理を作る)なごっこ遊びが減って来た。それは家庭、学校で作る場面を家で見ていないから！(給食当番は正に配膳)

早寝、早起き、家族団らんの食事が大事です！(生活リズムを大事にする)

結果、中学生、高校生はミーティングが出来ない。高校生にグループで何かを決めるミーティングをセットすると雑談は出来るが、物事を決定することが出来ない。家族団らんの中で物事を決める機会を増やしてほしい。

③ 草食系男子が増えている

小学生から草食系男子が増えている。また、肉食系女子が増えている。

英語スピーチ大会、青年の主張などの大会で本大会に出るのは90%が女子となっている。一昔前は男子が圧倒的に多かったが。

これは、小学校からの希薄な友人関係が影響している。女子は小学生から強固な女子三人組があることで鍛えられているが、男子は高校生、大学生になっても友達が多いが親友がおらず、友達関係がフワフワしている。P T Aで男子教育をしてほしい。

④ 子供が大人化している。

子供が大人の仲間入りをしている。習い事他で忙しい中・高校生が増えたことで、子供の40%が手帳を持ち、明日以降のスケジュールが決まっている。

今日の事だけを考えて今を精一杯生きている子供が減っている。

男子高校生が使う3つの言葉は、めし・うるさい・お金。しかし、こういった子供は自立しており、大器晩成型である。放課後、家に帰って来て母親と話しているような子供は、自我が出来ていない。自分が必要とされていないと思い込んでいる。自尊感情がないことが原因であり、海外赴任の親に同行した子供は自尊心を持っていると言われている。これは日本よりも仕事に余裕があり、一家団欒の機会が多く絆が深まることで自尊感情が高まる。

⑤ 家庭環境の役割

是非、家での晩酌文化を復活させて欲しい。一家団欒の宴を復活させて欲しい。

父親は繰り返し同じ事をしゃべる。子供は、聞き流す練習が出来る。これは、家

庭教育でしか出来ない。社会に出てからの身の処し方に大きく貢献する。
福井県は学力が高い。その理由としては、3世代続いている家系。女性が働く率が高い。図書館への入館率全国1位。子供会の加入率9割(全国平均4割)。
長野県民は信州の歌を全員歌える。
群馬県民は上毛歌留多の影響もあり、県内の地名を全て知っている。
この三県の県民は、自分の住んでいるところを誇りに思い、自慢出来る風土を小さい頃から学んでいる。

⑥ A | 時代に生き残る

A | 時代には現在人間がしている仕事のうち40%はなくなると言われている。
A | に出来ない仕事は非認知知識(苦情処理：教頭、役所の苦情係、幼児教育)
判断力と決断力を説明すると情報を集めてA案、B案、C案を作るのに必要な力が判断力であり、これはA | が得意な分野、色々な案からどれを選ぶか決めるのが決断力であり、これはA | には難しい仕事である。
☆決断が出来る高校生を作ってほしい。

三つの色(家庭色、地域色、学校色)、これを高校生のトライアングルと位置づけ、この三つから学べる環境作りをPTAが頑張って作って頂きたい。

4. 昼食&アトラクション 12時~13時

アトラクション 千葉県立富里高等学校 ジャズオーケストラ部
昼食の味が良くなるテンポの良いジャズを聴かせていただきました。

5. 特別第2分科会 ホテルニューオータニ幕張 鶴の間 13時30分~16時

「情報機器と学校教育」~高校生のスマートフォン利用の状況と必要な対応について~

① 基調講演 14時~14時30分

地元、千葉大学教育学部 副学部長の藤川 大祐 氏より 別紙プレゼン参照
・平成25年問題

平成25年からスマートフォン利用率の急増に伴う平成25年問題の話がされました。スマホ普及以前の対応としては
平成18年に携帯電話事業者にフィルタリング提供の義務化、
学校側による情報モラル教育の充実、学校によるネットパトロールなどが後追いで実施されてきたが、スマホ利用者の急増で後追い対策では対応できなくなり、高校生にいろいろな被害が報告されている。

(1) 高校生のスマホ利用時間

- ・平成27年度高校生のスマホ利用平均時間 192時間
- ・1日2時間以上のヘビーユーザーには顕著な特徴があり、総じて朝食を摂らな

いなど生活パターンが乱れている

(2) ネットいじめ

- ・ ネットいじめが拡大したのは平成 19 年、いろいろな取り組みでネットいじめが減少したが、スマホが普及し始めた平成 25 年度にネットいじめが急激に拡大これは多様なアプリが普及したことが要因であり、特に LINE が影響している。いじめている写真の投稿など

(3) 福祉犯罪被害者の増加

- ・ 少年に対し「わいせつな行為をする」「売春を強要する」「シンナーや覚せい剤を密売する」など少年の心身に有害な影響を与え、健全な育成を阻害する悪質な犯罪が増加している

FACEBOOK、TWITTER、LINE の中で、TWITTER のチャット型サービスによる被害が急増している

また、フィルタリング利用率 20%程度に急落していることも一因

② 「情報機器と学校教育」～高校生スマートフォン利用の状況と必要な対応について～
をテーマにパネルディスカッション

保護者からは、

- ・ フィルタリングを知らない。ルールを持たせてやっていない。
- ・ 使いこなすためのコミュニケーションは子供と出来る。
- ・ 千葉県立袖ヶ浦高等学校 情報システム科では iPad を自費で全ての生徒が持っており、授業中も常時携帯して利用している。

このように、情報機器を利用して勉強している子供は、どこまで進めば危険かを知っている。

こういう場に来ている人達は意識が高いが、日頃出ないような方々にどのような知らせるか？などの課題や利点の話がされました。

生徒からは、

- ・ グーグルアプリを一番利用している。
- ・ ラインで学校の持ち物や授業変更。
- ・ スノー(プリクラのような事が出来る)というアプリを良く利用している。
- ・ 利用については、個人の裁量が大きい。しっかり情報機器について話せる家庭環境作りが大切。
- ・ 犯罪は怖い。勝手に飛ばされて、居場所が分かったり、検索されるなどの話がされました。
- ・ 子ども達のほうがスマートフォンの使い方、新しいアプリに詳しい。
保護者が子どもたちに意見する時も、アプリ他の機能を理解してから話しをして欲しい。

教職員からは、

- ・実際に事が起きたあとでの対応となりやすい。教職員も、正直詳しくない。
- ・保護者も同様の調査結果で、子供の方が詳しい。
- ・千葉県立袖ヶ浦高等学校 情報システム科では iPad を取り入れているので、子供たちは全員タブレットを使い実戦力を高めている。授業で手を上げてまで先生に質問する子供は少ないが、タブレットからだ物凄い数の質問がある。

総評として、

- ① 保護者がまずはスマホの知識を得るとともに、子供たちへのルール作りが必要です。
- ② スマホの利用の仕方を間違わなければ、良い機器ですので、怖さを知って上手に活用して行く事が大事です。
- ③ 小さい頃からの言葉遣いを含めた親の教育が、一番大切です。
それには、PTAの協力が絶対に不可欠です！

以上、高校生も含めたパネルディスカッションを通じて、情報機器の正しい使い方について学校と家庭の双方で連携して議論する重要性を感じました。

平成 28 年 8 月 26 日 大会二日目

市原悦子さんによる記念講演

「私の選んだ女優の道」

「舞台俳優として、青春を舞台稽古で過ごしました。こんなに広い会場でお話するのは、今までで 5～6 回目です。お芝居が好きでお稽古が好きでした。昨日出来なかった事が今日は出来ます。お稽古をすれば、それほど緊張しませんが、今日はそんなお稽古がないので、何も話す事はありません。皆さんのお役に立つか分かりませんが、戦後の食糧難のお話をさせていただきます」との事で、千葉市を出て疎開をされていた頃の話をされました。当時は、毎日毎日ジャガイモを食べていて、お風呂に入るのも一週間に一回だけ、お百姓さんのところで入れてもらった。しかし、あんなに物がなかったので、皆で分ける事や物を大切にすること、感謝をするという一番大事な事を学んだ。12歳の頃、千葉市に戻り学校に通ったが、ノートが配給制でした。その時、友達がノートを取ったのを見て先生に言ったが、先生は「取っていない」と言われた。何度も何度も「取った」と言ったが、先生は「取っていない」と話された。すると、その子は泣いて逃げて行ったので、私は「取ったじゃないの」と追い駆けて行った。今思うと、「なんであんな事をしたんだろう」「なんであんな事を言ったんだろう」と後悔している。先生は傷つけまいとしていました。素晴らしい先生でした。その後、六本木の俳優座の試験にも受かり、お稽古お稽古の日々が続きました。私は暗いひねくれた人のところに行くのが好きでした。それは、人間は誰しも輝くものを持っていると思っていたからでした。そういう人の方が、共に怒ったり、喜んだり出来た時に共感出来ました。仲良しこよしでは何も生まれません。それが、役者のもとになりました。との旨の話をされた後に、グリム童話「ネズの木の話」と戦争童話集「凧になったお母さん」を朗読されました。グリム童話は少し薄気味の悪い怖い話で、戦争童話集は戦争による悲惨な物語でした。とても感情のこもった朗読で胸が熱くなりました。最後に、市原氏から「私は、幼い頃お百姓さんにより生き延びました。あの頃、同じような子どもがどれだけ亡くなったか。東京、広島、長崎、アウシュビッツと大変な惨劇でした。世界中から餓えや戦争がなくなる事を祈っております」との話を聞き、戦争の悲惨さを痛感しました。